

かわかんネット

発行：一般社団法人 東北河川管理技術研究会事務局

〒980-0802 仙台市青葉区二日町 18-25 シャルム二日町 3F

E-mail: triver@ae.auone-net.jp Tel: 022-398-8831 Fax: 022-398-8832

年頭にあたって

東北河川管理技術研究会

会長 宮内 利夫

穏やかな新年を寿ぎ新春のご祝詞を申し上げます。

昨年の十大ニュースには、新国立競技場計画と・五輪エンブレムの見直し、大村智名誉教授・梶田隆章宇宙線研究所長のノーベル賞受賞と関東・東北豪雨災害と口永良部島などの噴火がありました。

また、嬉しい話題として、ラグビーW杯で日本初の3連勝と五郎丸選手のルーティンのポーズが話題になりました。

一方、気象事象等では、過去に例がない1月から12月までの各月に台風が計27個発生しており、今年の年始めは12月から師走にかけて冬型の気圧配置が長続きせず、暖かく大半の都市では雪がない正月となり、山形蔵王ライザスキー場で開催予定のアルペン選手権大会が中止となり、各地のスキー場では降雪を待望みの状況が報道されています。

これらは、南米沖のエルニーニョ現象と温室効果ガス(CO₂)の増加による地球温暖化が原因といわれており、北日本では平年に比べ1.1度高く降水量は平年比114%となっており、地球温暖化等による影響は、今世紀末の東北地方の平均雨量は現在の1.3倍に増加し、河川の基本高水を超える洪水の発生確率は現在の5倍に増加すると予測されています。

これらに対処するため、国連機構変動条約(COP21)では、今世紀後半に世界の温室効果ガス排出量のゼロを目指す「パリ協定」が12月13日に採択されています。

昨年度の東北地方の主な河川関係の出水等では、4月岩木川・子吉川の融雪出水、5月～8月は少雨で12水系中9水系において渇水体制が取られ、7月は局地的豪雨により雄物川玉川支川齊内川(県管理)で堤防決壊があり、9月9日からの降雨と台風18号から変わった低気圧による「線状降水帯」により、鳴瀬川三本木観測所上流の「流域平均2日雨量は310mmの観測史上1位となり、関東・東北豪雨と名付けられ、鳴瀬川水系の支川吉田川等で堤防からの越水、県管理の渋井川で堤防決壊が発生しています。

これら最近のデータからは、異常気象現象の増加傾向が見られ、これに対し政府は、自然災害に強い国づくりを進める「国土強靱化」の取り組みを本格化させ、防災対策やインフラの老朽化対策を加速させる方針を打ち出しています。

当会には、堤防・河道・樋門樋管とダム管理の4分科会があり、それぞれの課題について、会員の経験と知識が加味された総合的技術力を活用して課題を整理し、よりよい河川管理に向け提言が出来ることを願っています。

また、昨年当会への協賛金の依頼につきましては、多数の関係企業様からご賛同を頂きまして、厚くお礼を申し上げます。誠に有難うございます。

今年の干支は、丙申となりますので「丙」は五行の「火」を表す漢字で横に燃え広がる様子とされています。「申」は五行の「金」に類し、陰陽では陽であり、樹木の果実が熟して実ると解され、この2字が合わると、「物事が大きく進歩発展し、成熟する」年とされています。当会も「丙申」にあやかり、分科会活動を活発化し、確実な発展のため会員皆様と関係各位にご理解を賜り、ご支援とご協力をお願いします。

新年にあたり関係各位と会員皆様の益々のご発展と、ご健康に留意され幸多い年になりますよう、ご祈念申し上げます。

分科会活動

H27年度 河川管理実務者研修 開催される！ — 堤防分科会 —

H27年度河川管理実務者研修が多賀城研修所で、実施されました。主催は、国交省東北地整です。期間はH27. 11. 09～13日の5日間。研修生は総勢17名。研修生の所属は、東北地整、県、市役所です。研修内容は、講話、河川概論、河川管理施設各論、現場実務研修、討論（ゼミ）などです。

当研究会からは、現場実務研修で、佐藤努、齋藤宗夫、島貫徹の3人が協力しました。現場実務研修は、朝のミーティングの後、研修所から、名取川左岸5.6Km付近まで移動。班ごとに分かれ、笹川樋門、堤防堤体、8.4Km付近の太白大橋の河道状況（経年の河道変遷資料、橋脚付近の河床状況も含む）、右岸2.0Km付近から上流へ500m区間の高水護岸、低水護岸の点検実習を行いました。現地研修終了後、研修所に戻り、班毎に分かれ、発表会の準備です。最後に、班毎に点検実習で、分かったこと、感じたことなど、発表します！質問や、研究会メンバーからの、アドバイスを受けて、現地研修は終了です。この研修は、グループで、実施することにより、自分だけの視点でなく、多くの視点や見方、考え方を学べる。自分は未経験でも、多くの経験談を聞くことにより、多角的な視点で対応できる、物事を捉えられるメリットがあります。この研修を踏まえて、職場に帰ってからも、それを活用し、研修の仲間とともに、これからも『絆』を、大事に育てて頂きたいと思います。

堤防点検状況



発表状況



河道分科会現地検討会

現地検討会は河道分科会活動の一環として、福島河川国道事務所の協力のもと、国内屈指の急流河川である荒川の河道状況等の現地調査と事務所職員との意見交換を通じ、会員及び事務所職員相互の資質向上と技術の伝承を図ることを目的とし平成27年12月12日に実施しました。

検討会は、畑井工務第1課長、奥中調査第1課長、栗田伏黒出張所長他4名の事務所職員と当会から中沢会長、南部副会長、三浦元会長、菊地元副会長、西條会員の5名の参加により。平成27年9月出水による荒川第12帯工及び右岸0.8Kmの被災箇所（河岸決壊）の現地調査と、平成27年9月出水の被災箇所の要因分析と初動体制基準の活用について等の意見交換を実施する事としました。

現地では、荒川の流水エネルギーの凄さを実感し、また意見交換の場では「荒川は通常の河川と同様に扱うことは無理である事」や「構造物の整備や出水後の河道の変化を把握しておく事」また、「河道整正や構造物のメンテナンス（補修）のサイクルを検討すべき」さらには「出水中にはCCTV画像を活用し流速等の流下状況の把握」等、12名の参加者と少数精鋭ながら予定の時間を超過するほどの熱い議論が取り交わされました。



意見交換会
(福島市西学習センター)



現地調査
荒川右岸0.8k
被災箇所

平成 27 年度流量観測講習会及びダム管理講習会を開催しました。

流 量 観 測 講 習 会

- 日 時 : 平成 27 年 11 月 14 日 (土)
場 所 : 岩手県建設会館 建設研修センター
受講者 : 21 名
講習内容 : 1. 河川に関する最近の話題
2. 流量観測データの活用
3. 流量観測の留意点
4. 質疑応答



ダ ム 管 理 講 習 会

- 日 時 : 平成 27 年 11 月 28 日 (土)
場 所 : 宮城県建設産業会館 4 階会議室
受講者 : 68 名
講習内容 : 1. ダム管理に関する最近の話題
2. ダム施設の維持管理について
3. ダム総合点検の事例と留意事項について
4. 質疑応答



お知らせ

協賛金について

平成27年11月に当研究会への協賛金を募りましたところ、下記の各社よりご賛同を頂きましたのでご紹介いたします。

1	(株) 安藤・間 東北支店
2	(株) 岩手パブリック
3	宇部建設 (株)
4	応用地質 (株) 東北支社
5	(株) 奥村組 東北支店
6	川崎地質 (株) 北日本支社
7	(株) 建設環境研究所 東北支社
8	(株) 建設技術研究所 東北支社
9	(株) 五洋建設 東北支店
10	柴田工事調査 (株)
11	(株) シビル設計
12	東京コンサルタンツ (株) 東北支店
13	(株) 東建工営
14	東邦技術 (株)
15	日建工学 (株) 東北営業所
16	(株) パスク
17	みちのくコンサルタント (株)
18	八千代エンジニアリング (株) 東北支店

協賛頂きました各社に対しまして、厚く御礼申し上げます。

編集後記

あけましておめでとうございます。今年は、丙申（ひのえさる）、申年生まれの人は、頭の回転の速さ、行動力があり、抜け目の無さと冷徹さも持っているのだそうです。この申年生まれの方の象徴といわれるのが豊臣秀吉だそうです。今年もよろしく願いいたします。（編集 事務局）